

【77 例目】 栃木県（那須郡那珂川町）における  
豚熱の患畜確認農場の現地調査概要

拡大豚熱疫学調査チームによる現地調査の概要は以下のとおり。

（１）農場の概況

- ① 当該農場は、丘陵部に位置する一貫農場であり、農場の周辺には田畑及び雑木林が存在していた。
- ② 農場周辺では野生イノシシの生息が確認されており、本年３月には約 1.4km、昨年 9 月には農場から約 2.5km の距離に位置する地点で野生イノシシの感染が確認されていた。

（２）飼養衛生管理関係

- ① 従業員は農場立入り時にシャワーを浴び、農場専用の長靴、作業着に着替えていた。
- ② 農場には飼養豚を管理する従業員が 3 名おり、1 名は飼養衛生管理区域内に居住していた。担当作業は固定しておらず、全員が豚舎の作業に従事しているとのことだった。
- ③ 発生豚舎である離乳豚舎に入る際を含め、各豚舎への立ち入り時に豚舎外で豚舎専用の長靴への交換と靴底の消毒、専用作業着への更衣、手袋の着用を行い、豚舎内で手指消毒を実施していた。
- ④ 飼料の輸送車両等が農場に入る際には、農場入口の動力噴霧器等で車両消毒を行い、運転手は農場が用意した長靴、作業着を着用、手袋の交換や手指消毒を実施していた。
- ⑤ 豚を豚舎間で移動する際は、母豚は屋外の通路を歩行させ、離乳豚はケージで運搬していた。発生した離乳舎から隣接する子豚舎へ移動させる際は屋根付きの畜舎間通路を歩行させていた。なお、通路、ケージは使用前に消毒を実施していた。
- ⑥ 農場では主にパイプラインで自動給餌していたが、一部の豚舎では紙袋で豚舎に飼料を持ち込み、豚舎内に蔵置した給餌車で給餌していた。
- ⑦ 飼養豚への給与水は、井戸水を使用していた。
- ⑧ 糞尿は、農場内の処理施設で発酵させ、堆肥化していた。な

お、処理施設には防鳥ネットは設置されておらずカラス除け用に  
凧が設置されていた。

- ⑨ 敷料（おが粉）については、貯蔵場所に屋根はあったが一部破  
損しており、ブルーシートを被せて蔵置されていた。
- ⑩ 死体は豚舎内でブルーシートを被せて保管し、化製処理業者が  
回収していた。この際、農場入り口に停めた業者の車両まで農場  
の車両で運んでおり、業者の車両が農場内に入ることはなかつ  
た。

### （3）野生動物関連

- ① 衛生管理区域の周囲には、金網フェンスが設置されており、農  
場出入口には門が設置され、使用時以外は閉鎖されていた。
- ② 飼養管理者によれば、農場周辺にイノシシがいることは認識し  
ているが、目撃したことはないとのこと。
- ③ 豚舎はセミウインドレス豚舎で、飼養管理者によれば豚舎内で  
ネズミを見かけることがあり、殺鼠剤や粘着シートによる対策を  
行っていたとのこと。調査時には発生豚舎入り口でネズミの死体  
を確認した。

### （4）臨床症状の経過

- ① 当該農場では令和2年4月に初回の豚熱ワクチン接種が実施さ  
れており、その後、継続的に豚熱ワクチン接種が実施されてい  
た。
- ② 本年3月17日頃から発生豚舎において食欲低下が見られ、3  
月23日には5頭が死亡したが、その他の豚に大きな異常は見ら  
れなかったとのこと。
- ③ 3月24日に発生豚舎でさらに1頭死亡し、その他の豚の活力  
低下も感じたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ④ 調査時、発生豚舎の豚については殺処分された後であったが、  
肥育舎、分娩舎等の豚に異常は認められなかった。

（以上）